

平成 28 年度 第 2 回 堺市立図書館協議会 会議録

開 催 日

平成 29 年 3 月 30 日 (木) 午後 2 時から 4 時

場 所

堺市立中央図書館 集会室

出席委員

常世田良会長、脇谷邦子副会長、松村昭雄委員、平野祐子委員、
玉村徹委員、高橋裕子委員、森美由紀委員、山中浩之委員
(欠席：西口徹委員)

事務局

松井中央図書館長、前川中央図書館副館長兼総務課長、
中川中図書館長、成清東図書館長、浦部西図書館長、
辻野南図書館長、杉田北図書館長、六車美原図書館長、
赤嶺総務課長補佐、白川主幹兼企画情報係長、
竹田主幹兼図書館サービス係長、堀口管理係長
阪倉企画情報係職員

傍 聴

7 名

内 容

案件

- 1 『今後の中央図書館のあり方について』(答申)」について
- 2 平成 28 年第 4・5 回市議会の報告について
- 3 「市民の声」に寄せられた図書館への意見等について
- 4 平成 29 年度図書館予算について
- 5 その他

開会宣言・会議の成立

傍聴の許可

会議録署名委員の指名

・山中委員、森委員を指名

案件 1 『今後の中央図書館のあり方について』(答申)」について

⇒事務局

資料1-1に基づき、答申の協議経過について報告。その後、常世田会長より、松井中央図書館長へ答申を提出。

●（会長）

密度の濃い議論、討議をしていただいて答申を作りあげることができた。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げたい。

案件2 平成28年第4・5回市議会の報告について

⇒事務局

資料2-1、2-2に基づき、平成28年第4回市議会定例会および第5回市議会文教委員会での答弁を説明。

案件3 「市民の声」に寄せられた図書館への意見等について

⇒事務局

資料3-1、3-2、3-3に基づき、平成28年3月から平成28年6月の「市民の声」の件数と主な意見を説明。

●（副会長）

他市ではくり返し寄せられる要望については、ホームページで回答を公表している図書館もある。そのような仕組みを検討してはどうか。

⇒事務局

今後検討していきたい。

●（会長）

自習室の設置についての意見が出ているが、子どもたちの居場所としての機能を図書館でも検討する必要がある。ただし、資料を利用し調査をしている、本来席が必要な利用者が、図書館から離れてしまう恐れがある。慎重に考えなくてはならない。

●（委員）

子どもたち、特に小学生の学校が終わってからの居場所については考えていかなければならない問題である。

●（会長）

松村委員の子どもたちの居場所についての意見は私も賛成である。ただ、単なる受験勉強だけの場所という意味での自習室は慎重に検討していきたい。

●（委員）

中央図書館ではロビーに読書・学習席を設けているが、ロビーは本来展示や、催しで利用すべきではないかと思う。

案件4 平成29年度図書館予算について

⇒事務局

資料4-1に基づき、平成29年度図書館予算について報告。

● (副会長)

「ふるさと納税」については資料費の増加にもつながるため、積極的にPRしてもらいたい。大阪市でも絵本の購入支援として「ふるさと納税」を使った取り組みを行っている。私たちが市民に積極的に「ふるさと納税」をPRしたい。

⇒事務局

PRの方法については今後の検討課題の一つと認識している。

● (会長)

ふるさと納税をする市民は最初から図書館の資料費として寄附することがわかるのか。また、予算を超えて寄附が集まった場合は、繰り越すことができるのか。

⇒事務局

その予定である。高額の寄附があれば、補正予算で計上することも可能である。

案件5 その他

⇒事務局

資料5-1に基づき、「堺市立図書館利用者アンケート調査」について報告。

● (会長)

10時台という、開館して1時間の来館者が多いが、その年齢層はわかるのか。午前中は年配の方が来られる傾向にあるのか。

⇒事務局

時間帯ごとの年齢別の集計は今回用意できていない。

● (会長)

来館者の時間帯と年齢別のクロス集計を後日準備していただきたい。高齢者の方が朝早く来られているのかなどの分析が必要である。

● (委員)

中央図書館なら、自転車や徒歩など利用者はどのような方法で来館しているのか。

⇒事務局

来館手段についてはアンケートの調査項目に入っていないため、不明である。

● (会長)

今回議論になっているアンケート調査と図書館評価については、様々な切り口があるので、意見交換会等を活用して図書館協議会としても次年度考えていきたい。

● (副会長)

来館しても本を借りなかった方の割合が高いことに驚いた。また、オンラインデータベースは利用頻度が低いので、電子書籍などとあわせて気軽な説明会などを開催してほしい。電子書籍の絵本を見てみたい。

⇒事務局

電子書籍の閲覧は、システムの改善を行い、専用のアプリケーションではなく、ブラウザを利用して電子書籍を閲覧できるようにした。また、電子書籍の絵本では『ペネロペ』シリーズが人気である。

⇒事務局

本を借りる方を年齢別で見ると、30～50代の割合が高く、60・70代になると借りない方が多くなっている。

● (会長)

従来から規模の大きな図書館においては、本を借りない利用者が借りる方と同じ位の割合でいるというのが、様々な調査で明らかになっている。小さな分館でも同じ傾向なのかを調べる必要があるのではないか。また、市民同士の交流や調べもの、ラーニングコモンズの空間を求めるニーズがどれくらいあるのかを調べると、新しい中央図書館の施設面での設計の参考になるのではないか。

● (委員)

分館対象の質問項目にだけ本の充実について聞いているが、なぜか。

⇒事務局

平成28年度までの4年間、分館の資料充実ということで古くなっている資料の入れ替えを行った。その効果を今回のアンケートで調査した。

● (委員)

利用者数が多い東、南、北図書館では資料に対する需要度は高いと思う。中央図書館と比べ、区域館の蔵書数には開きがある。また、地域ごとの特性もあるだろう。議会でも区域館の資料充実について指摘されていたが、区域館をもっと充実しなければとの思いを持った。

⇒事務局

利便性の問題もあるし、区域館の蔵書数と中央館の蔵書数に対応する利用者数のバランスは異なっていると思う。中央館の機能に各館のバックアップという側面もある。しかし、区域館の資料がかなり古くなってきているのは事実であり、次年度以降は区域館の資料の充実を年度ごとに行っていけるように取り組んでいきたいと考えている。

● (副会長)

利用者アンケートの結果は、職員に対する評価は高い一方、蔵書数や調査の評価は低く、市民は蔵書が充分でないと感じていると思う。人口に対する一人当たりの資料数は他の政令市と比べても少ないので、ふるさと納税等も活用して努力してほしい。

● (会長)

人口あたりの資料数に関しては、政令指定都市は低い。人口16万人の浦安市と堺市はほぼ同じ資料費である。堺市だけでなく、政令指定都市全体に言えることだが資料費がもっと増えればよい。資料費が増えれば利用者も増加する。

● (委員)

市議会の質疑内容だが、中央図書館よりも区域館の方が利用者数は多いのか。中央図書館が一番大きくて利用者数も多いと思っていた。耐震工事が影響しているのか。

⇒事務局

図書館全体で年間約230万人の来館者数があるが、議員の質疑は中央図書館と中央図書館以外の各区の図書館をあわせた来館者数を比較した数字であった。区域館、分館も大切だということを言われている。区域館は新しい館があり利用が多い一方、中央図書館は40年以上経つので、施設面でマイナスがある。バリアフリー等施設設備面では、可能な限り努力しているが使いづらいところはある。

● (委員)

中央図書館は交通アクセスの問題もある。

● (会長)

交通手段は大きな問題である。堺市の図書館は駐車場の台数も少ない。コミュニティバスの活用など、多様な選択肢を考えていくべきではないか。

資料5-2、5-3に基づき、「平成27年度 堺市立図書館の点検・評価」「平成27年度 政令指定都市立図書館統計比較」について議論

● (副会長)

全体的にBばかりの評価になっているが、図書館として何か重点的に力を入れていく考えはあるのか。

⇒事務局

評価は、サービス方針に基づいて継続して実施してきた。メリハリのある評価も必要だと思うので、検討していきたい。

● (会長)

新年度から年度によりテーマを定め、そのテーマごとに評価しても良いのではないかと。基本的に評価というのは行うだけでなく、その評価をもとに今後どのように改善していくのかを考えていかないと意味がない。この場で話し合い、事務局とも相談しながらサービス向上につながる評価をできればよいと考えている。また、中央図書館耐震改修工事のための4か月休館は、レファレンスなど個別に影響があったとするのではなく、全体的に影響があったと最初に述べたほうがよい。

会長による閉会宣言

以上